

ジオパークの世界認定がもたらした経済効果とその変化 - 島原半島ジオパークの例

Economic effect and its temporal change that the GGN authorization brought -the example of Unzen Volcanic Area Geopark

大野 希一^{1*}

Marekazu Ohno^{1*}

¹ 島原半島ジオパーク事務局

¹ Unzen Volcanic Area Geopark Promotion Office

大地の遺産を活用した地域振興は、ジオパークの重要な目的の一つである。島原半島地域は、世界ジオパークの認定から3年以上が経過したものの、地域住民がその効果を実感しているとは言い難い。本当にジオパークの見学を目的とした観光客はいるのか？いるとすれば、それはどの程度なのか？この疑問を解決するために、島原半島ジオパーク事務局は、2010年と2011年の夏季に島原半島内の主要観光施設70箇所以上において半島外から来訪した観光客を対象に旅行の目的を問うアンケート調査を実施し、ジオパークの見学を目的とした観光客の割合を求めた。そして得られた2200件以上のアンケートの解析結果から、ジオパークの世界認定がもたらした経済効果を算定し、その経年変化の原因を検討した。

まず2011年は、島原半島ジオパークの見学を目的に含む観光客の割合は、日帰り客で13.2%、宿泊客で16.0%に達した。この年に島原半島地域を訪れた観光客は、日帰り客が約473万人、宿泊客が約71万人（長崎県観光推進本部、2012）であり、また島原半島内における2011年の総観光消費額（長崎県観光推進本部、2012）から算定した観光客一人当たりの平均消費単価は、日帰り客で約5,921円、宿泊客で約28,964円となった。実際には、観光客は複数の目的を持って観光旅行を行うことが多いため、ここでは観光客が回答した旅行の目的数の平均値（日帰り：2.5個、宿泊：3.4個）でこれらの消費単価を割り、ジオパークにおける経済効果を算定した。その結果、ジオパークの世界認定がもたらした経済効果は、2011年の1年間で約25億円と見積もられた（Unzen Volcanic Area Geopark Promotion Office, 2012；島原半島ジオパーク事務局、2012）。

一方2012年は、島原半島ジオパークの見学を目的に含む観光客の割合は日帰り客で10.0%、宿泊客で12.4%となり、2011年に比べてともに約3%減少した。旅行の目的数の平均値は2011年と同様（日帰り：2.5個、宿泊：3.3個）であった。これらの数値と、2011年の観光消費額を組み合わせると見積もった経済効果は、暫定値ながら約19億円となった。実際の観光客数は減少傾向にあることから、最終的な経済効果はこの値をさらに下回る可能性が高い。

経済効果の減少の原因は、ジオパークの見学を目的に含む観光客の割合の減少に他ならない。その主たる要因は、雲仙岳災害記念館や大野木場砂防みらい館など、ジオパークをイメージしやすい施設でのアンケートの回収数が大幅に減少したためである。その一方、アンケートを港やフェリーの中といった、観光客の目につきやすい場所で実施したため、半島への観光客の3/4を占める日帰り客のアンケート数が200件以上増加した。いわば2012年の数値は、島原半島ジオパークに対する観光客の認知度の実態に近い結果といえる。今後は地域一丸となり、観光客が気軽にジオパークを体験し、地域に直接の経済効果をもたらすような受け入れ体制の整備（地域周遊の仕組みの整備、ガイドツアーの商品化、お土産物や特産品の開発と販売など）がより一層求められる。

キーワード: 島原半島ジオパーク, 経済効果, アンケート, 日帰り客, 宿泊客, 地域振興

Keywords: Unzen Volcanic Area Global Geopark, Economic effect, Questionnaire, Day-torippers, Overnight visitors, Local promotion